

## 浜松観光ボランティアガイドの会

### 新年を迎えて「コロナに留意して活動を」



浜松観光ボランティアガイドの会 副会長 太田 進 (南ブロック)

明けましておめでとうございます。皆様にはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃はガイド活動をはじめ、会の各種行事や運営につきましてもご協力をいただき、誠にありがとうございます。

去年は新型コロナウイルスという新しい感染症が拡大し、多くの人たちが感染した年でした。それに伴いオリンピック等が延期になったり、当会の行事も中止になったり延期になりました。浜松城では家康公入城450年という事で城内のリニューアル工事に係りガイド活動日は半減となり活躍の場がなくなりました。

さて、本年も1月18日から始まる「観光ボランティアガイド新人養成講座」を皮切りに「富士山の日ウオーク」や浜松城内や家康の散歩道コースがリニューアルされたり、オリンピックが開催予定になっているので多くのお客様が浜松市にお越しくださるのではと期待しています。従いまして浜松城をはじめとし、浜松まつり会館、犀ヶ崖資料館、浜松駅での私たちの活動は会員一人ひとりが研鑽を積み「おもてなしの心と感謝の心」を持ってお客様をお迎えしていきたいと思っております。

何はともあれお互い協力し合いながら健康に特に「新型コロナウイルス」には留意していただき「明るく、楽しく、やらまいか」の心意気で浜松観光ボランティアガイドの会の新たな歴史を刻んで参りましょう。本年もどうぞよろしく願いいたします。

### 新型コロナウイルスは、モォ～たくさん!! 早く終息して、リニューアルオープンした浜松城にお客様が、ギュウギュウ詰めになるほど来城して欲しい

2021年 丑



#### 茶文字の山栗ヶ岳に牛の巨大オブジェ現る

- ・展示場所：掛川市東山 1051-1 栗ヶ岳 (標高 532m) 山頂休憩所 「栗ヶ岳世界農業遺産茶草場テラス」前
- ・営業時間：10:00~16:00
- ・休日：月曜 (祝日の場合は翌日)、雨天時
- ・構成材料：木材、竹、ササ、ススキ
- ・サイズ：高さ約 3.5m、幅約 6.0m
- ・展示期間：2021年2月末まで
- ・山頂駐車場：約 50台駐車可能
- ・山頂までの道路幅は狭いので慎重な運転を

### 犀ヶ崖資料館 幻の地上絵

昨年12月11日(金)に犀ヶ崖資料館の広場に「出世大名家康くん」と「三つ葉葵の家紋」の地上絵が描かれていました。これは東ブロックの齋藤博行さんが当番の日に描いたとのこと。残念ながら数日で消えてしまい、幻の地上絵となりました。

北ブロック 松本初義



出世大名家康くん



三つ葉葵の家紋

# 浜松城リニューアル後の説明会

12月24日(木)に浜松城天守閣のリニューアル後の当会会員への城内展示説明会が、研修部主催で開催されました。コロナ禍の配慮もあり4回に分散し、①11時～11時45分(28人)、②13時～13時45分(21人)、③14時～14時45分(23人)、④15時～15時45分(22人)に展示概要の説明が浜松市都市整備部公園管理事務所副主幹加藤晴康様からありました。当日は、朝から薄曇りで15時頃から小雨の肌寒い気候でしたが、参加者はそれぞれリニューアルのすばらしさに感動し、新しい年のガイド活動に思いをはせながら帰られたのではないかと思います。



1階フロアにて

私は、上記②グループに参加し、ワクワクしながら城内に入りました。入口に立つといきなり「若き家康の城浜松城」と御城印書体の縦書きで書かれた導入看板が目に入り、今までとは異なるイメージを感じました。そのまま左側の受付を通ると若き家康の思いをドラマチックに描くコーナーがあり、ここで講師から全体の展示コンセプトについてお話がありました。

続いて各コーナーの説明をしていただきましたが、以下そのポイントを記します。

浜松城を物語る「人」の思い、「城」の歴史、「街」の景について、若き家康が見たであろう世界を3つの“情”でめぐり体感する展示を目指した。

1階は青壮年期の情熱の層(家康の熱き思いを描く)、2階は時代を画した情勢の層(家康がつくった浜松城の歴史を掘り起こす)、3階は夢を描いて展望したであろう情景の層(家康が過ごした浜松をめぐる・浜松を望む)というフロアごとのテーマを設けた。

この地に城を築いた家康が、浜松と城に込めた熱き思いを体感するところから展示が始まり、浜松城を解き明かす「人」「城」「街」を、1階から3階を往復する展示体験がつながる。

そして各コーナーのリニューアルのポイントは、基本コースを順に追うと次のとおり。尚コロナ禍での蜜を避けることも考慮し、一方向でめぐるように設計した。

## (1階) 情熱の層

①**家康浜松に立つ**：浜松に家康が登場したことが、まさに浜松城と城下町の始まり。さらに浜松の家康は、一般的な人物像とは違う、血気盛んな若者であることを来館者に印象づけるコーナー。パッション家康ステージ(既製の等身大立像とその背景に三方ヶ原合戦を含む3シーンの映像を流す。各シーン3分で15秒間隔に設定。)

②**家康の足跡をめぐる**：展示のエピローグであり、家康や家族が過ごした足跡が残る市内散策へと誘うコーナー。

## (地下)

③**浜松城天守秘話**：復興天守閣再建時に発見された井戸(周囲を石積に更新)を中心に、天守閣の秘密(当初は現在の約1.5倍の大きさ等)を説明。

## (2階) 情勢の層

④**歴代城主と浜松城**：浜松城と城下町の移り変わりをパノラマ

シアターで表現。家康のつくった城下町が歴史とともにどのように変化し、現代に受け継がれているか、最新の発掘調査研究で解き明かす。家康と城主たちの真の息遣いを感じるコーナー。(約3分間)

⑤**新時代のシンボルとして**：明治時代以降、権威の象徴から市民に愛される新たなシンボルとして変化していく浜松城を、懐かしい写真などからたどるコーナー。

## (3階) 情景の層

⑥**出世城からの展望**：天竜杉を使用した床(適切な森林管理が行われていることを証明するFSC認証材を使用していることのPR効果も狙い)と、歴代城主の家紋入り格天井(ごうてんじょう)を用いた天守閣の造作により近い空間再現とした。そして浜松城の地理的位置づけをよりわかりやすく紹介する展望フロアへ誘引する。



2階フロアにて

## 浜松城公園天守閣展示リニューアル竣工式



12月27日(日)好天の下、招待者20名が出席する中、10時から浜松城天守閣南側広場において「家康公浜松城築城450年事業」の一環として、天守閣展示リニューアル竣工式が執り行われました。

招待者20名を迎え、浜松市長鈴木康友様の挨拶、リニューアル概要の説明、来賓紹介の後、来賓代表として浜松市議会議長鈴木育男様が挨拶をされた後、浜松市長鈴木康友様、浜松市議会議長鈴木育男様、中区自治会連合会会長廣野篤男様、遠鉄アシスト(株)取締役社長河野延之様、(株)乃村工藝社文化環境事業部長武田博宣様の5名によるテープカットで式典は終了し、登城始めで天守閣内の内覧が行われ、内覧終了後流れ解散となりました。

広報部 小池輝夫(東ブロック)

### 会員の交流広場

### 彦根の龍潭寺 訪問記

コロナの流行する少し前の一昨年12月に彦根に行って来ました。浜松では混雑していた龍潭寺ですが、彦根の龍潭寺には私たちの他誰もいなくて、その時代に思いを馳せることができました。

彦根龍潭寺は井伊直政が1600年に佐和山城主になった際に、浜松市の龍潭寺を分寺し、龍潭寺の五世・晃天(こうてん)禅師を招いて建立された井伊家の菩提寺です。歩道から長い参道もなく、仰々しくない山門で参拝する人を温かく迎えてくれるような寺です。寺全体が薄暗く、修理が必要だと思う所がありました。俳優で晃天禅師を演じた人のイメージが繋がり、親しみが沸きました。受付の方が「浜松にも龍潭寺があります」と言った時には、胸の中で「浜松が本家本元だよ」と言っていました。

浜松と同じく、龍潭寺の近くに井伊神社があり、周りに大きな木が有って、由緒ある神社という感じがしました。こちらにも訪れる人が無く、ゆったりした気分で歩きました。辺りは佐和山城跡となっていて、井伊家のことを知らなくても歩きやすい道で、ハイキングが楽しめるコースだと思いました。暮れの忙しい時期に歩いている人を見た時には、時間の過ごし方にもいろいろ有るなぁと思いました。

コロナ禍になる前の思い出に残る旅になりました。

中ブロック 島津康代



彦根龍潭寺の入り口

### 会員の交流広場

### たかぽんの独り言③

「天守閣」と言う呼び方は明治前後から使われはじめた俗語だそうで城郭専門家さん達は必ず「天守」と呼びます。私も知ったかぶりして「天守」と呼ぶことにしています。先日某テレビ局の再放送の時代劇で家康公が「大坂城の天守閣を砲撃しろ」って叫んでいましたので「時代考証が全然駄目じゃん」って叫んだら、妻に「いちいちうるさい」って怒られました。

相変わらず週に数回は浜松城公園の散策を続けています。今年の夏にリスさん達が捕獲されて見かけなくなりましたので何か話題を作ろうと、各地の城のように浜松城の石垣にも「墓石や石塔等の転用石が無いかな?」探し廻りましたが一個も見つからなかったため、現在は新しいハートの石を捜索中です。日本庭園の敷石のなかにいくつか発見しましたが、今のところは内緒です。天守曲輪で休憩しながら観光客さんの反応を見るのも楽しいですね。先日もフ～フ～言いながら登って来られた御婦人のグループが「昔の殿様は大変だよ、毎日こんな所を登ったり降りたり」などとお話されていたので「天守には誰も住んで居ませんよ、戦時には物見櫓や司令部のような役目をしますが、いつもは槍とか弓、鉄砲を保管している倉庫なんです」と説明したら、「嘘でしょ?」って顔をされました。これも城と言えばやたら天守や石垣が出て来る時代考証が駄目な時代劇のせいでしょうか?おっと、また怒られそうですので今回はこのへんで。

西ブロック 飯尾隆

## 浜松城公園歴史ゾーン 樹木剪定・撤去の現地説明会

浜松城公園歴史ゾーン内の樹木剪定・撤去の現地説明会が浜松市の公園課主催で11月21日(土)にありました。当日は好天に恵まれ市民13名が参加しました。

本丸⇒鉄門⇒芝生広場⇒埋門⇒天守曲輪のルートで説明がありました。第一に天守、天守門の眺望を阻害している樹木について、実際に見えにくい地点に移動して剪定・撤去する樹木の説明があり、参加者は納得していました。第二に石垣、土塁に悪影響を及ぼしている樹木の近くで説明があり、よく理解できました。そして、樹木の管理にあたり公園内に生息する鳥類などにも配慮しているとのこと。例として「絶滅危惧種のミゾゴイの環境保護」などの説明がありました。浜松城公園は観光資源と市民の憩いの場として、更に整備が計画されています。浜松城公園内の事を少しずつ学んで、今後のガイド活動に生かしていきたいと思えます。



撤去予定の黒松(赤丸印)

西ブロック 古山貴朗

## 浜松まつり会館 新年干支凧プレゼント



館長から凧のプレゼント

1月1日(金)快晴。強めの風もあり絶好の凧揚げ日和でした。まつり会館にて新年3日間先着40名様に干支凧無料配付があると聞き出掛けてきました。

会館広場では既に愛好家さん達により大凧が空高く揚げられていて、開館9時には、「毎年玄関に飾っている」「孫と干支凧を揚げに来た」と大勢のご来館者で賑わいました。コロナ禍の3密回避で空地での凧揚げを楽しむ人が増え、凧の売り上げは例年の3倍増とか、「鬼滅の刃」のキャラクターカイトが11月頃より大人気だそうです。「お正月には凧揚げて、駒を回して遊びましょう」と思わず口ずさんでしまいます。今年の干支は「丑」、疫病退散を願って「アマビエ」も絵柄にジョイントされています。大空を気持ちよさそうに泳ぐ初凧眺め、令和3年が良き年でありますようにと願いました。

広報部 金原里枝(南ブロック)

## 12月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

### 《浜松城》

複数回来場のあった団体		
※ 阪急交通社	10回	217名
※ クラブツーリズム	3回	52名
※ 東海道五十三次を歩く舞阪宿から浜松宿 2回		75名
3日 木 大人の休日倶楽部		26名
4日 金 富士宮市・県立富岳館高校		32名
6日 日 なゆた観光自動車		20名
11日 金 三島市立沢地小学校		48名

17日 木 森町立三倉小学校	10名
19日 土 都市計画課	12名

### 《犀ヶ崖資料館》

1日 火 県居小学校	10名
------------	-----

### 《浜松まつり会館》

4日 金 湖東中学校	70名
11日 金 三島市立沢地小学校	47名

## はままつ案内人会報 222号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会  
 〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)  
 TEL & FAX 053-456-1303  
 メールアドレス mail@hama-svg.jp  
 ホームページ http://www.hama-svg.jp/



はままつ案内人

検索